

令和6年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動の取組事例

「地域学校協働活動事業」の成果と課題(福島県双葉町)

取組の概要や経緯

平成26年にいわき市で仮設校舎を整備し今年で11年目を迎えた。ふるさとである双葉町は令和4年8月に特定復興再生拠点区域の避難指示が解除となるも、いまだ多くの町民は避難をしている。(1月1日現在、町内への帰還・転入登録者は182名)

児童生徒は、避難先であるいわき市との関わりを大切にするとともに、双葉町の復興状況の理解を深め帰属意識を維持しながら、地域学校協働活動に取り組んでいる。

内容

- 双葉町の伝統芸能にふれる 標葉せんだん太鼓保存会にご指導いただき、10月開催の「柗檀祭」(学習発表会、文化祭)における児童生徒の発表。
- 美化活動等で地域とかがわる 仮設校舎周辺の神社や河川敷の清掃活動、花いっぱい運動(一社)「ふたばプロジェクト」による花植え。
- 放課後学習支援「ふたばっ子学習会」において学習の習慣化を図る。外部の学習支援団体の協力を得ながら、個に応じた学習プリントによる指導と主体的な学びによる学力向上。
- 町の現状を知る 『双葉町の産業を知り、未来の双葉町を考える』をテーマに、児童生徒は町内で様々な体験を行うとともに、企業や町内で働く方々にインタビューを行ったり、農業を営む方と一緒にブロッコリーの収穫を行ったりした探究学習の取組。

ポイント

- 本事業を進めるにあたり、ふるさと双葉町と現在学校が所在するいわき市も含んだ包括的に「地域」と認識したうえで、地域学校協働活動を通して、「地域愛」を醸成する機会とする。
- 実際に双葉町を訪れ、体験活動を行うことにより、色々な視点から復興状況を学ぶ。

成果

- 子どもたちは、地域との様々な関わりにより、学習の幅が広がり、感じたことや疑問に思ったことをもとに、探究的に学ぼうとする姿勢が見られるようになった。
- 地域の人たちと繋がりをもつことで、地域の一員としての役割について考えるきっかけになった。
- 役場職員の講話を聞いたり、実際に双葉町で体験したりしたことで、町の復興状況を知り、町の将来について展望する機会を得た。
- 放課後学習会の支援により、学習習慣の定着と学力の向上が図られた。
- 小学校では町内の農家の方の話の聞いたり、収穫を手伝ったりするなどして、ブロッコリーを活用したドーナツ『フタバフレンズ』を町の特産品にできないかと町役場に提案した。



せんだん太鼓



ふたばプロジェクト
の花植え作業



放課後学習支援



町内での体験学習



町で収穫したブロッコリーを使ったドーナツの開発

今後の方向性

- 地域学校協働活動事業の取組が、子どもたちとふるさと双葉町との繋がりを維持
・双葉町民の方を講師派遣し、町の伝統や歴史にふれる。
・双葉町を訪れ、復興状況を理解する。
・双葉町についての学習活動を発展させ、次世代へどのように繋げていくか考える。
- 学校と地域コーディネーターの連携の強化を図り、学校のニーズに合わせた活動を工夫・展開
- 町の特産品としてブロッコリー等のPR展開